

行政等と連携した婚活支援の取組み

島根県雲南市のJA雲南

研究員 一瀬裕一郎

1 はじめに

晩婚化、未婚化が進むなかで、婚活という言葉が世間の耳目を集めている。婚活とは、独身男女が結婚相手を意識的に探す活動のことであり、民間の結婚相談業者から行政まで多様な主体が、婚活をしている人々に異性との出会いの場を提供する取組みを行っている^(注1)。JAもまたしかりであり、本稿では2009年度から行政等と連携して婚活支援に取り組んでいるJA雲南について紹介する。

2 雲南市の未婚率の動向

全国と同様に島根県雲南市でも未婚率の上昇が進んでいる(第1表)。雲南市の未婚率は、20歳代から30歳代のすべての年齢層で、男女とも05年には95年よりも上昇しており、男性よりも女性の未婚率の上昇幅が大きい。特に30歳代女性の未婚率は10年間で10ポイント以上上昇している。それと軌を一にして初婚年齢が上昇する晩婚化も進んでいる。

3 JA雲南の夢サポート事業

JA雲南では、02年度から地域活性化を目的とする夢サポート事業^(注2)を独自に実施してきた。同事業では、JA雲南の若手職員が1泊2日の旅行^(注3)を企画し、JA雲南管内(雲南市、奥

出雲町、飯南町)の若者と交流を深めている。組合員だけでなく、員外の若者も旅行に参加しており、JA雲南では同事業を新しい組合員を獲得する1つの入り口として位置づけている。また、旅行に参加した若者同士が結婚する等、同事業は着実に成果を挙げている。

4 うんなん恋 伝説

雲南市の未婚率が上昇するなかで、「うんなん婚カツ! 応援団(以下「応援団」)」がJA雲南、雲南市役所、雲南病院、雲南市商工会青年部、島根三洋の独身若手職員等によって結成された。JA雲南の若手職員が応援団に加入した背景には、JA雲南が実施してきた夢サポート事業の実績が高く評価されたことがある。

応援団は島根県の「しまねの出会い創出事業」^(注4)を活用して、09年度に20~30歳代を対象にした出会いイベント「うんなん恋 伝説(以下「恋伝」)」を開催した(写真)。以下では09年度の恋伝の詳細について述べる。



「うんなん恋 伝説」のチラシ
(雲南市webサイトより抜粋)

5 09年度に実施したイベント

応援団は09年7月から09年度に開催するイベントの企画を始めた。応援団全員での数度の検討を経て、4回のイベントを実施した。

第1表 雲南市の未婚率の推移(20~30歳代)
(単位 %、ポイント)

	男性			女性		
	05年 a	95 b	増減 a-b	05 c	95 d	増減 c-d
20~24歳	89.4	89.0	0.4	84.5	81.6	2.9
25~29	68.2	63.1	5.1	51.5	44.2	7.3
30~34	45.2	39.7	5.5	25.4	14.9	10.5
35~39	30.6	26.3	4.3	16.2	5.0	11.2

資料 雲南市地域振興課資料

1回目は09年10月10日の「バーベキュー&ビアガーデン」である。気軽に参加できる企画であったため、当初の募集人数80名(男女各40名)を大幅に上回る119名が参加した。一方で、参加者数が多過ぎ、全員と交流する時間が取れないという課題を残した。

2回目は09年11月28日の「クリスマスパーティー」である。1回目の課題を踏まえ、参加者同士の交流を十分に深めるため、参加者を30名(男女各15名)に絞り込んだ。会場の古民家で生演奏のジャズを流す等、応援団は雰囲気を感じ上げる演出を仕掛け、参加者同士の交歓を促した。^(注5)その取組みが奏功し、11組のカップルが成立するという大きな成果が挙げられた。

3回目は10年1月30日の「新年会パーティー」である。36名(男女各18名)が参加した。定員を上回る応募があったため、雲南市在住者を優先した。この企画でのカップル成立は少なく、傾向として男性が消極的になっていることがその一因として浮かび上がった。^(注6)

4回目は10年2月28日の「普段よりちょっ

ぱりオシャレをして掴む劇的な恋！」である。これまでのカジュアル路線から一転し、この企画はフォーマルかつ高級感を感じさせる内容とした。松江市の結婚式場による全面協力を受け、洗練された雰囲気の中かで交流を深めた。64名(男女各32名)が参加し、12組のカップルが誕生する結果となった。

6 応援団の特徴と恋伝

この取組みの特徴として以下の3点を指摘できよう。

第1に、応援団が20~30歳代の独身の若者によって構成されていることである。応援団は婚活中の若者と同世代であり、独身という共通項もある。それゆえ、応援団は婚活中の若者が持つニーズにフィットしたイベントを企画でき、顕著な成果を挙げられたのである。

第2に、複数の組織に属する若者によって応援団が構成されていることである。異なる組織に属する若者が意見を出し合うことによって、独創的なアイデアが生まれ、企画の魅力を高める原動力となったのである。

第3に、応援団が所属する組織すべてが地域に根ざした組織であることである。恋伝の企画運営を通して生まれた応援団の紐帯は、^{ちゅうたい}婚活支援のみならず、地域の様々な課題に協同して取り組むことのできる素地を醸成するのではなかろうか。

7 おわりに

10年度の恋伝についての応援団の初会合が、10年7月8日に開かれた。10年度には男性の魅力アップ講座や参加者へのアフターフォローの整備等、内容の一層の充実を図る予定であるという。今後の応援団の取組みについて期待を持って注視したい。

< 主要参考文献 >

- ・山田昌弘・白河桃子(2008)『「婚活」時代』
- ・雲南市(2010)『市報うんなん』No.66

(いちのせ ゆういちろう)

(注1)JAでは青年部(例:JAみなべいのみ・和歌山県)、女性部(例:JAよいち・北海道)などの組合員組織が婚活支援の取組みを行う多くの事例がある。しかし、JA雲南のようにJA職員が外部の組織と連携して婚活支援に取り組む事例は珍しい。

(注2)恋伝が開始されたことを受け、JA雲南では09年度には夢サポート事業をいったん休止した。ただし、恋伝は雲南市在住者を主要な対象者とするものである一方、奥出雲町、飯南町もJA雲南の管内であり、それら地域の在住者にも交流の機会を提供することが必要であるとの判断から、JA雲南では10年度には夢サポート事業を再開する予定である。

(注3)これまでの旅行ではユニバーサルスタジオジャパン、別府・湯布院、隠岐島など西日本各地を訪れている。

(注4)10年度の恋伝では「島根県地域子育て創生事業」を利用する。

(注5)詳細は日本農業新聞09年12月25日付を参照。

(注6)草食系男子という新語が生まれているように、女性に積極的にアプローチしない男性が増える傾向にあるとみられる。